

## 調査レポート

### 沖縄県内における 2022 年プロ野球春季キャンプの経済効果

— 経済効果は 43 億 4,700 万円 —

#### 【要 旨】

- 2022 年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、43 億 4,700 万円となり、2021 年の 23 億 6,600 万円を上回った。
- 今季は 2 年ぶりに有観客でのキャンプインとなったが、新型コロナウイルスの流行第 6 波に伴い沖縄県や一部地域にまん延防止等重点措置が適用されている状況下であったことなどから、感染予防対策を徹底した上での開催となった。
- 延べ観客数は約 11 万 4,000 人となり、無観客開催となった前年（0 人）から全増となったものの、新型コロナ以前の 2019 年（約 40 万 8,000 人）と比較すると、約 29 万 4,000 人減と大幅に減少した。
- 観客数のうち県外からの観客数は約 9,000 人と推測され、前年（0 人）から全増となった。
- 有観客開催ではあったものの、まん延防止等重点措置が適用されている地域において県をまたぐ渡航自粛が要請されていたことや、厳しい入場制限が敷かれ、ファンとの交流イベントは自粛された。その結果、経済効果は限定的なものとなった。
- 経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業が 8 億 8,100 万円、飲食サービス（飲食店など）が 5 億 3,900 万円、建設業が 3 億 8,300 万円などの順であった。
- プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから県経済に与える影響は大きい。しかし、今季は新型コロナウイルス流行第 6 波の影響などから経済効果は限定的となり、県外からの観客を呼び込む重要性を改めて認識する結果となった。
- 今後はウィズコロナに対応した安心・安全なキャンプ実施体制の構築および観光消費拡大の両立を図っていくことが重要であり、キャンプ地を訪れるインセンティブ創出など、新たなキャンプの在り方を模索していく必要がある。ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、県内スポーツ産業の持続可能な運営と今後の更なる発展が期待される。

## 1. 2022年の春季キャンプの概要

### (1) キャンプ実施球団の状況

2022年2月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、前年と同様で1軍キャンプは9球団、2軍キャンプは5球団、3軍キャンプは0球団となった。開催球場は前年より1球場増加し14球場となったものの、キャンプ期間は前年より短くなる傾向にあった(図表1)。

沖縄県や一部地域では、新型コロナウイルス流行第6波に伴うまん延防止等重点措置が適用されている状況下であったものの、感染予防対策を徹底的に講じた上で2年ぶりに有観客でのキャンプ実施となった。感染予防対策においては、政府方針や日本野球機構(NPB)がまとめた「NPB 2022年春季キャンプ新型コロナウイルス感染予防ガイドライン(共通)」を基に球団ごとの方針と予防対策が講じられた。来場者の人数制限のほか、基本原則としてマスク着用や声援の禁止など飛沫抑制の徹底や3密回避、来場者に対し県の接触確認アプリ「RICCA(リッカ)」の登録または、氏名・連絡先の把握を徹底するなどの対応がとられた。球場などの施設利用では、ゾーニングにより球団関係者と観客の動線を明確に分けたほか、選手においても検温・マスク着用の徹底や外食の禁止、練習中および試合中の手指衛生に努めるなど、さまざまな感染予防対策が講じられた。

(図表1) 沖縄県内における2022年春季キャンプの実施状況

球団名 (略称)	キャンプ地	開催球場	キャンプ期間		
			2月	3月	日程
北海道日本ハムファイターズ (日本ハム)	名護市	タビックスタジアム名護	→		2/1~2/28
	(2軍) 国頭村	かいぎんスタジアム国頭	→		2/1~2/27
広島東洋カープ (広島)	沖縄市	コザしんきんスタジアム	→		2/15~2/28
中日ドラゴンズ (中日)	北谷町	Agreスタジアム北谷	→		2/1~2/25
	(2軍) 読谷村	オキハム読谷平和の森球場	→		2/1~2/25
横浜DeNAベイスターズ (DeNA)	宜野湾市	アトムホームスタジアム宜野湾	→		2/1~2/27
	(2軍) 嘉手納町	嘉手納町野球場	→		2/1~2/26
東京ヤクルトスワローズ (ヤクルト)	浦添市	ANA BALL PARK 浦添	→		2/1~2/28
阪神タイガース (阪神)	宜野座村	宜野座村野球場	→		2/1~2/28
東北楽天ゴールデン イーグルス (楽天)	金武町	金武町ベースボールスタジアム	→		2/1~2/19
	(2軍) うるま市	うるま市具志川野球場	→		2/1~2/21
千葉ロッテマリーンズ (ロッテ)	石垣市/ 糸満市	石垣市中央運動公園野球場/ 西崎運動公園	→		2/1~2/20
	(2軍) 石垣市	石垣市中央運動公園野球場	→		2/1~2/26
読売ジャイアンツ (巨人)	那覇市	沖縄セルラースタジアム那覇	→		2/14~2/27

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

## (2) キャンプ参加者・観客の人数

### ①選手・球団関係者・報道陣

キャンプ参加人数は、選手（1～2軍計）・球団関係者は全9球団合計で約1,140人（前年比約80人増）となり、報道関係者や解説者は約2,100人（前年比約300人減）となった。報道関係者や解説者は、新庄剛志監督が就任し話題を集めた日本ハムファイターズのキャンプ入りや、昨季20年ぶりの日本一となった東京ヤクルトスワローズの凱旋、糸満市での約30年ぶりのキャンプ受入れなど話題が多く注目を集めたが、前年よりキャンプ期間が短くなった球団が多かったことや、新型コロナウイルス流行第6波に伴い沖縄県や一部地域にまん延防止等重点措置が適用されていたことなどから減少した。また、厳しい入場制限が敷かれ例年通りの取材が難しくなったことも影響した。

### ②観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約11万4,000人（オープン戦含む）となり、無観客開催となった前年（0人）から全増となったものの、新型コロナ以前の2019年（約40万8,000人）と比較すると、約29万4,000人減と大幅に減少した。

新型コロナウイルス流行第6波に伴い、沖縄県や一部地域へまん延防止等重点措置が適用され、県をまたぐ渡航自粛の要請など、全国的に外出自粛ムードの高まりがみられた状況下であった。入場の際には、多くの球団が専用サイトやアプリなどでの事前予約や当日登録を呼び掛けたほか、県の接触確認アプリ「RICCA（リッカ）」への登録を求めるなど、球団ごとの対応がとられた。また、一部球団では来場72時間以内のPCR検査陰性証明か、ワクチン2回接種後2週間が経過していることを証明できる書類の提示を入場条件とするなど、厳しい入場制限が敷かれた。さらに、受け入れ市町村と球団の多くは、政府方針の20,000人以下よりも厳しい入場制限を設け、ファンとの交流イベントを自粛するなど徹底した感染予防対策に努めた。

その他では、天候不順により屋内練習が多く、また予定されていた練習試合やオープン戦が雨天中止となるなど、降水量が平年より多かったことも影響した。

延べ観客数のうち、県外からの観客数は約9,000人と推測され、前年（0人）から全増となり、新型コロナ以前の2019年（約9万2,000人）と比較すると、約8万3,000人減となった。

## 2. 経済効果の試算について

### (1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプでは、球団関係者のほかに県外からの観客が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー、土産品・グッズ購入などに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて飲食や土産品・グッズを購入する。また、キャンプ受入れ地の市町村による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で29億7,500万円となり、前年（16億300万円）を13億7,200万円上回った（図表2）。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が8億8,000万円で最も多く、次いで飲食費が6億6,100万円、練習施設などの整備費が3億7,700万円、交通費が2億5,300万円などとなっている。

無観客でのキャンプ実施となった前年からの反動で増加したが、沖縄県や一部地域でまん延防止等重点措置が適用されており外出自粛ムードの高まりがみられたことなどから、県外からの観客が減少し、2019年比では宿泊費（19億3,600万円減）や土産品・グッズ購入（13億5,600万円減）、飲食費（13億4,900万円減）など多くの項目で減少した。

（図表2）2022年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

支出項目	支出額 (百万円)	前年差 (百万円)
宿泊費	880	384
飲食費	661	284
練習施設等の整備費	377	▲150
交通費	253	103
土産品・グッズ購入	213	161
娯楽・レジャー費	168	168
アルバイトへの支払い	93	19
クリーニング代	80	10
施設等使用料	54	▲5
その他	197	269
合計	2,975	1,372

(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額29億7,500万円に自給率を掛けると県内で供給された分である27億3,500万円が求められ、これが直接効果となる。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービスなどを提供している産業の売上増加へと波及していく。これを1次間接効果といい、これが10億6,900万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接効果といい、これが5億4,300万円となる。

これらの直接効果、1次間接効果、2次間接効果を合わせた金額が43億4,700万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金などの雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が23億300万円となり、この中で雇用者所得が10億5,000万円となる(図表3)。

今年の経済効果である43億4,700万円は、前年(23億6,600万円)を19億8,100万円上回った。また、新型コロナ以前の2019年(141億3,100万円)を97億8,400万円下回った。

(図表3) 2022年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果

【単位:百万円】

	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額		
		雇用者所得 誘発額	営業余剰 誘発額	
直接効果	2,735	1,358	640	312
1次間接効果	1,069	596	266	153
2次間接効果	543	349	144	106
総合効果(経済効果)	4,347	2,303	1,050	570
直接支出額	2,975	-		
波及効果	1.5(倍) …(総合効果/直接支出額)			

(注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。

2. 1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。

3. 2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。

4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。

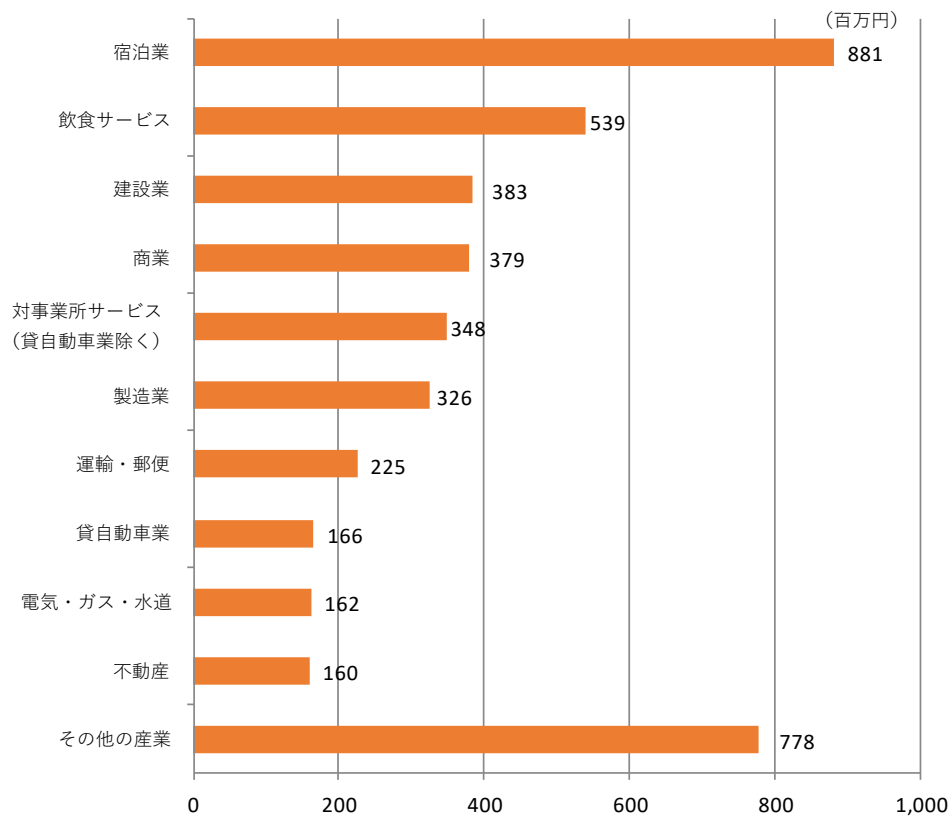
5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得や営業余剰など)。

6. 端数処理により合計は合わないことがある。

### (3) 産業別の経済効果

今年の経済効果である43億4,700万円を産業別にみると、宿泊業が8億8,100万円と最も大きく、次いで飲食サービス（飲食店など）が5億3,900万円、建設業が3億8,300万円、商業が3億7,900万円、対事業所サービス（貸自動車業除く）が3億4,800万円、製造業（土産品製造や食品加工など）が3億2,600万円の順となった（図表4）。

(図表4) 2022年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果



### 3. キャンプ経済効果の課題

今年のプロ野球春季キャンプの経済効果は、前年を上回った。無観客開催となった前年から増加したものの、新型コロナ以前と比較すると大幅な減少となった（図表5）。キャンプ実施球団は前年と同数の9球団となり、滞在期間は前年より短くなる傾向にあった。

施設の整備状況については、これまで各市町村及び球団協力会などにおいて、球団からの要望に対しスピード感をもって対応し環境を整えてきた。そうした積み重ねにより屋内練習場が併設される球場施設がスタンダードになりつつあり、より充実度の高い練習環境の提供に努めている一方で、老朽化に伴う施設の修繕や施設機能の強化など、ハード面の更なるレベル向上を望む声も聞かれた。県内は12球団中9球団がキャンプを実施している国内有数のキャンプ集積地であることから、練習試合を組みやすいなどといったメリットがあり、より実践的で質の高い環境が生まれている。今後も県内キャンプの維持・拡大を図るため、引き続き球団からの要望に可能な限り迅速に対応していくことが望まれる。

その他では、キャンプ地へのアクセス性向上を望む声や駐車場及び交通情報の不足など、交通面での課題も挙げられた。キャンプ地をつなぐシャトルバスの整備や公共交通機関の積極的活用の呼びかけなど、交通面の課題解決においては県を挙げての取り組みが必要となろう。アクセス性向上や交通情報整備を図ることで、キャンプ地での域内周遊へとつながり、経済効果の向上に寄与していくものと考えられる。

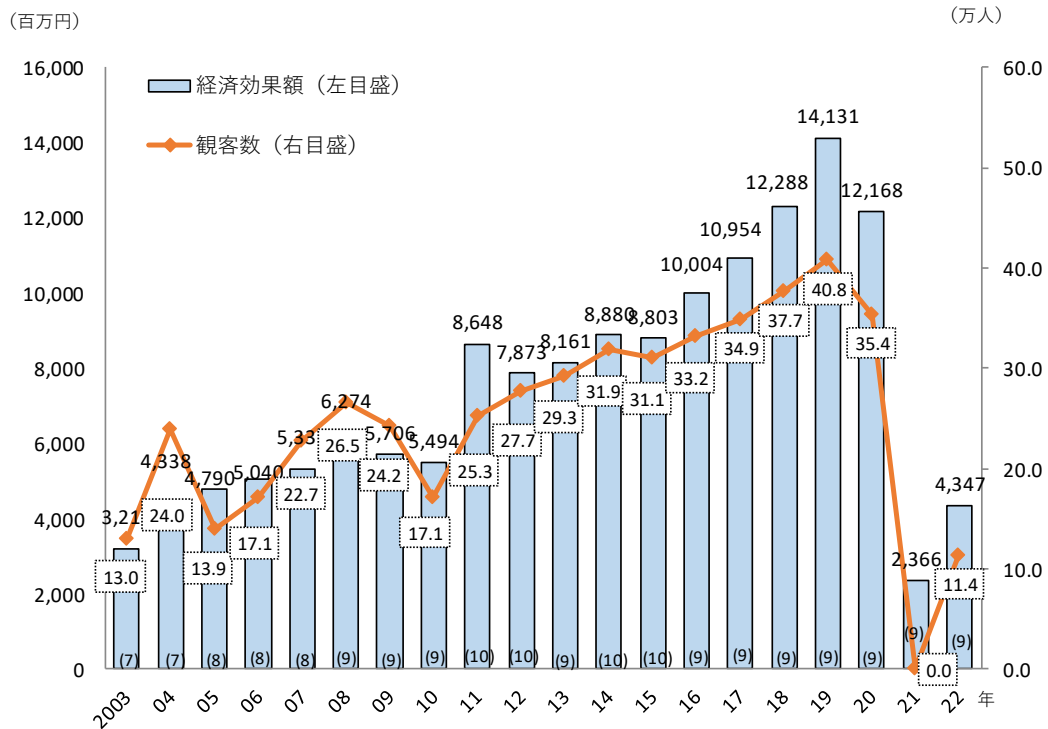
プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから県経済に与える影響は大きい。今季は2年ぶりの有観客開催となり約11万4,000人の観客が訪れたものの、新型コロナウイルス流行第6波に伴い沖縄県や一部地域においてまん延防止等重点措置が適用されているなか、厳しい入場制限を設けてのキャンプ実施となったことなどから、観客数とそれに伴う観光消費は限定的となり、観客を呼び込む重要性を改めて認識する結果となった。球団関係者や受け入れ市町村、球団協力会などからは、2年ぶりの有観客開催で期待感があったものの、新型コロナウイルス感染急拡大や天候不順などの影響により、観客の動員に苦慮したとの声が聞かれた。

今後、プロ野球春季キャンプ実施による経済効果の最大化を図るためには、ウィズコロナを念頭においた新しい生活様式に対応する安心・安全なキャンプの実施体制の構築を図ると同時に、観光消費額の大きい県外客の誘客および観光行動を促すことが重要であり、感染予防対策と観光消費拡大の両立を図っていく必要がある。また、県内キャンプは選手と観客との距離が近く、ファンサービスや交流イベントが大きな魅力の一つとされていたが、感染予防の観点から前年に引き続き今季も自粛された。今後は選手と観客双方の安全確保を前提に、実際にキャンプ地を訪れるインセンティブ創出など、ウィズコロナにおける新たなキャンプの在り方を模索していく必要がある。

県内では、プロ野球キャンプに対応した球場施設のほか、プロバスケットボールやプロサッカーに対応する大規模施設の整備が加速化している。2021年3月に完成した沖縄アリーナは「FIBAバスケットボールワールドカップ2023アジア地区予選Window4」の試合会場に決定するなど、県内における新たなスポーツの拠点として賑わいの創出が期待されている。

プロ野球キャンプをはじめとするスポーツ観戦を目的とした来県は、沖縄観光における新たな客層の獲得及びリピーター創出へとつながり、コロナ禍で疲弊している県経済の回復、観光需要の平準化に資する重要な役割を担うと考えられる。ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、県内スポーツ産業の持続可能な運営と今後の更なる発展が期待される。

(図表5) プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※ ( ) 内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

以上  
りゅうぎん総合研究所 米須 唯



【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(1979年～2008年)

暦年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	(投手陣) 名護市	◎						(○)				
80		◎						(○)				
81	(一軍) 名護市 ○									◎		
82		(一軍) 沖縄市	○									◎
83			(一軍) 石垣市							○		◎
84	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村	◎			○							
85	(一軍のみ) 名護市		(投手陣) 具志川市				◎					○
86		○										◎
87			(一軍) 石川市 具志川市	(一軍) 宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			(一軍) 石川市 (二軍) 具志川市		(投手陣) 糸満市			(○)	(投手陣) 那覇市	◎		
90					(一軍) 糸満市					○	(一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町	◎
91		○			(一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市							◎
92						○						◎
93					(一、二軍) 平良市 糸満市	◎						○
94					(一、二軍) 平良市、糸 満市、城辺 町					◎		○
95					(一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 ○	◎						
96	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村		(一軍) 北谷町 (二軍) うるま市	(一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町	◎					○		
97			(一軍) 石川市 (二軍) 読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						(一軍) 浦添市				◎	○	
01						◎		(○)				
02										◎		○
03	(一軍) 名護市 (二軍) 東風平町						(一軍) 宜野座村 ○				◎	
04			(一、二軍) 北谷町 読谷村 ○		(一軍) 平良市 (二軍) 平良市、城 辺町							◎
05			(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町		(一軍のみ) 平良市		○	(一、二軍) 久米島町	◎			
06	(一軍) 名護市 (二軍) 八重瀬町→ 国頭村 ◎		(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 ○		(一軍のみ) 宮古島市							
07	(一軍) 名護市 (二軍) 国頭村 ○		◎							○		
08									(一軍のみ) 石垣市	○		◎ ○

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(2009年～2022年)

暦年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
9	○				(一、二軍) 宮古島市	(一軍) 浦添市 (二軍) 八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○							(一軍のみ) 那覇市	◎ ○	
12	○									◎ ○		
13						(一軍のみ) 浦添市		◎ ○		○		
14									(一、二軍) 石垣市	○	◎ ○	
15					(二軍のみ) 宮古島市	○					◎ ○	
16	◎ ○	○										
17		○									◎ ○	
18		○						(一軍) 久米島町 →金武町 (二軍) 久米島町		(一、三軍) 那覇市	◎	○
19										○	◎	○
20		(一、二軍) 沖縄市								(一軍のみ) 那覇市 ○	◎ ○	
21		(一軍のみ) 沖縄市			○	◎ ○		(一軍) 金武町 (二軍) うるま市				
22									(一軍) 石垣市 →糸満市 (二軍) 石垣市			
一軍 キャンプ地	名護市	宮崎県/ 沖縄市	北谷町	宜野湾市	宮崎県	浦添市	宜野座村	金武町	石垣市/ 糸満市	宮崎県/ 那覇市	宮崎県	宮崎県
二軍 キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	嘉手納町	宮崎県	宮崎県	高知県	うるま市	石垣市	宮崎県	宮崎県	高知県

- (備考)
- 太線内のシャド一部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。
  - 楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。
  - 日ハム(1軍)の18年、19年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグラウンドやブルペンでの練習となる。
  - ロッテ(1軍)は22年2月1日～13日まで石垣キャンプ、15日～20日まで糸満キャンプ。
  - 巨人(1軍)は、22年2月1日～13日まで宮崎キャンプ、14～27日まで那覇キャンプ。

【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成27年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」などの部門が明示されていない。そのため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表(458行×367列)から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際にそのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要(県外旅行などを含む)のうち県内宿泊部門を利用した割

合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きいため、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定しなおして使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})\Delta F \\ \Delta X_2 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})c k w \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

$\Delta X_1$  : 一次生産誘発額 (直接効果+一次間接効果)

$\Delta X_2$  : 二次生産誘発額 (二次間接効果)

$\Delta X$  : 総生産誘発額 (経済波及効果=直接効果+一次間接効果+二次間接効果)

$I$  : 単位行列

$\widehat{M}$  : 移輸入係数 (対角行列)

$A$  : 投入係数 (行列)

$\Delta F$  : 最終需要増加額

$c$  : 民間消費支出構成比

$k$  : 消費転換係数

$w$  : 雇用者所得率